



## 答が複数ある問題、答なしの問題

明けましておめでとうございます。午前中に元気に通ってくれた小学生と年末最後まで頑張った中1・中2の冬期講習は終了しましたが、中3は正月特訓を終えて、いよいよ追い込みです。センター入試と一般入試を受験する高3も頑張っています。

さてその中3が大学入試を迎える時に実施される大学入学共通テストのプレテストが実施されました。以前もご説明したように、現行のセンター入試が現在の高1を最後に終了し、2020年から記述式の問題などを含む新しいテストが導入されます。その実施にあたり事前に現役の高校生に試行問題を解いてもらい、正答率や問題点を探ろうというものです。その結果を見てみると、数学の基本的な問題の正答率が78.9%なのに対して、同じ基本的な内容でも、選択肢が6つに対して「合っているものをすべて選べ」という問題では0.9%でした。なぜなのかと正解を見てみると、合っているものが4つもあるのです。そのすべてを答えなければ正解にはなりません。この問題に向き合わされた高校生の心理は良くわかります。4つまで探しきれなかった人もいたでしょうが、「まさか4つもないだろう。」と思った人も多かったのではないのでしょうか。まさに「正解が一つとは限らないこれからの世の中で求められる学力を測る」という目的に合わせた問題なのでしょう。また今回のプレテストでは出題されませんでした。が、「解なし」を正答とする問題を設けるための検討を始めたことも明らかになっています。

この流れは高校入試にも来ていて先進的な私立高校や他県の入試問題には今までになかったタイプの「考えさせる」問題が登場しています。近いうちにそれは千葉県公立高校の入試でも出題されるでしょう。新中1を受験する年には現行の前・後期入試が終了し一本化されますが、それよりも前にきっと問題内容の変化はあります。

思えば今までの勉強は迷う時間を少しずつ奪ってきたのかもしれませんが、戸惑い、探す時間はあってもいいのです。でも迷ったから「考えるのをやめる」ということだけは、やめよう！